

丁寧な熱心な作業も技術の一つです！！

本年も多くの現場で、**是正**作業を実施致しました！**大命題の緊急出動ゼロが見えてきました！！****油脂ゼロポンプ装置・設置**

油脂ゼロポンプの実証テストを踏まえ、稼働中のDSP処理槽にテスト導入致しました。

結果、実証テスト以上の成果が確認されました。

よって、積極的にポンプ槽への設置を計画中です。

**回分式・水位調整**

当該回分式活性汚泥システムは、消えない泡が浮上し溶存酸素が上がりにくい方式です。そこで、噴流曝気装置を改良の結果、DOが上がり良質の活性汚泥につくりかえることができました。ついては、浮上の泡も大半が消えました。

**DSP・HVシステム設置**

当該システムは、全ての設置箇所です抜群の脱臭効果を発揮しています。本年も5ヶ所に導入致しました。

同HVシステムは、副次効果で余剰汚泥減容作用が納入施設で実証されています。

**スカム破碎装置・設置**

dsp排水処理槽の沈殿槽には、汚泥の堆積現場が多く見られます。浮上のスカムは点検時に好気槽に返送する必要がありますが、実施なく汚泥引抜きを要請しています。当該処理槽は、スカム破碎装置を設置しスカムの浮上を無くしています。

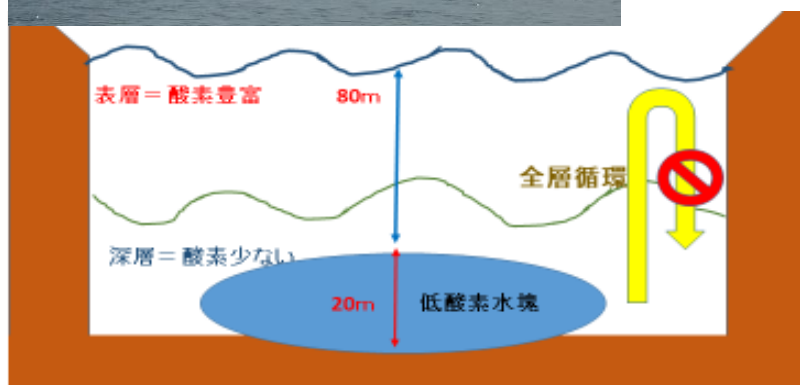
**新型スクリーン設置**

当処理槽の短所は①担体が漏れ防止スクリーンに閉塞しトラブルします。②担体が数年で破損、スクリーンを通過し故障を誘発します。そのために、担体漏れ防止**新型スクリーン**を補助設置し問題を解決しています。

**臭気配管・閉塞解除**

dsp排水処理槽の臭気・横引き埋設配管には、結露水が溜まり排気に支障を及ぼしている箇所があります。

当該箇所は、埋設配管に溜まった水を自給式ポンプで引き抜きました。その結果、排気は正常を取り戻しました。

水物語 No 81**琵琶湖の深呼吸は復活するか？……。 Mr.J・N**

10月の滋賀県の発表では、琵琶湖深層部の溶存酸素量が危機的な数値となり、生物環境への影響や漁業に対する影響が心配されています。

日本一の大きさを誇る琵琶湖は最深部の水深が100m以上あり、表層と深層部でそれぞれの水塊が形成されていて対流が起きることは滅多にありません。その滅多に起きない対流現象が、毎年2月～3月上旬にみられる「全層循環＝琵琶湖の深呼吸」です。冬季の低温で比重を増した表層水塊が湖底に沈み比重の軽い深層の水塊と入れ替わるのです。この時、酸素を沢山含んだ表層水が湖底に入って湖底に酸素を運ぶので「深呼吸」と言われるのです。

暖冬が2年続き、2019年の春と2020年の春は連続して全層循環現象が観測されませんでした。滋賀県の発表は深層部のDO値が0.5mg/lを切ったというものです。今年の冬は寒くなるとの長期予報もありますが、琵琶湖が久しぶりに深呼吸をしてくれるかどうか？？？水中生物も人間も、気が気でない状態です。

写真は、夏の琵琶湖・竹生島近辺の美しい風景です。風景から深層部の様子は覗きません。

臭気ゼロ・汚泥ゼロ！

DSPハイブリッドシステム推進中！

クリーンテックサービス東京